

砂川市政3期目の政策予算

公約の行方

4

「額は小さいが市が取り組むを始める。シーズ種」と事業化の間をつなぐ構想をつくりたい」

2日の会場で砂川政文市長は公約にも掲げた「R&B」(リサーチ・アンド・ビジネスパーク)構想を推進に意欲をみせた。予算額は85万円で「先進地視察費」と事務経費のみ(企画部)と「見せ口からのスタート」のようだが、現実に「R&B」の中身はすでに十勝で動き始めている。

■クラスター継続

「基幹産業の農業と地場産業の連携を図りながら『十勝製菓業クラスター』

R&B構想

産学官連携の仕組みづくり

具体的成果へ正念場

を自指す」

砂川市政1、2期の公約に掲げられたのが、産学官に連携で新事業創出を自指す工学系研究機関「十勝産学官連携」の推進や金道展開を担っている。

△北大R&B構想の北キャンパス(30校)に大学の研究施設、独立系研究機関などの研究開発拠点を集約。大学の知的資産を生かし、新技術開発やベンチャー企業新事業創出を目指す。大学、道、札幌市、道経連、道経産局が連携協定を結び、構想の推進や金道展開を担っている。

「道内主要地域でR&Bの考え方による産学官の取組を展開する」(高橋はるみ知事)方針で、市の今(佐山晃司科学技術コーディネーター)ごち財団は「発展型」に進み6年間続け帯広導入の背景は同じ

産学官連携で新技術開発(2000年から民間の「共同建設・運営」)の建設も補助新事業創出を自指す文科省の都市エリア産学官連携促進事業」昨年度から

市は研究開発モデル事業、地場産業振興補助金などの補助制度を整備し「産学官連携の要」として4月、2クラスターと重なる目的は「水産資源テトヘブド」

砂川市政1、2期の公約に掲げられたのが、産学官に連携で新事業創出を自指す工学系研究機関「十勝産学官連携」の推進や金道展開を担っている。

ある産学官連携をさらに強める農業分野の成果は少なく、今後が正念場という状況にせねばと懸念する。

■具体像まだ不明

市が関係する数々の産学官連携事業。しかしクラ「一層」を築き「よ」の批判もある。市内部では「具体的な像はまだ分らない」という声が多く、戸

内の意図と、推進体制は今後の課題だ。担当する企画部は研究施設誘致なども考えられるが、すべて今後の検討事項。ただ地域の方向性を示すとは大切で、構想は考え方や仕組みが中心になると説明する。



並べた研究が使った「都市エリア産学官連携促進事業」のパンフレット。R&Bに先駆けて、地場産学官連携の取り組みが十勝で

「基本的な方向性や理念に欠けていたと感じ、」開発支援はもういらない。多くの提案が出てくるような仕組みづくりが必要。方向性がある具体的な条件もある。R&B構想では特定の分野を指定して方向性を示すことが期待されている。(小村祐三) (おわり)